

2025 年度 事業計画・収支予算

(2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

歴史街道推進協議会

2025 年 6 月

目 次

I. 地域連携事業	・・・1
II. 日本文化体感プログラム事業	・・・3
III. フォーラム・展示事業等	・・・5
IV. 歴史街道倶楽部事業	・・・6
V. 広 報	・・・7
VI. 各種の受託研究・受託事業などの実施	・・・9
VII. 協議会運営	・・・10
2025年度 事業支出予算（案）	・・・11
2025年度 収支予算書（案）	・・・12

I. 地域連携事業

(事業目的・方針)

歴史を現場で体感するというコンセプトの実現と、テーマ性、物語性にあふれたその地域らしさの発信を目指し、他団体との連携を強化、広域官民連携事業を継続的に展開する。

当該年度は、特に、大阪・関西万博開催の機会を利用したスタンプラリーの開催、インフルエンサー等 SNS を利用した地域 PR などを通じ、地域連携強化に注力する。

(事業項目)

1. 共通

(1) 歴史街道スタンプラリー

- ・自治体および沿線 6 鉄道の共同事業の一環として、歴史街道の周遊性促進・寺社ネットワークの向上を目指す。
- ・2025 年 3 月 1 日から 12 月 14 日までの期間で、大阪関西万博を記念し、万博会場の関西パビリオンもスタンプポイントとして、デジタルスタンプラリー（EXP02025 開催記念編）を開催する。

(2) 観光ガイド組織との連携事業

- ・各地の観光ガイド組織の活動状況について情報を収集し、会員自治体の観光協会等と相談の上で、ホームページに加え、デジタルスタンプラリーのチラシにも活動情報と連絡先等を記載し、広域に情報発信していく
- ・大阪・奈良歴史街道リレーウォーク実行委員会等他団体と連携し、「まち歩き」を推進する。

(3) 地域と協力した SNS の活用

- ・SNS の更なる活用を目指し、地域の会員団体等と共同で、インフルエンサーを活用した地域 PR の検討を進める。
- ・SNS を利用し、地域の歴史文化に関わるイベント等を紹介する情報連携プラットフォームを推進する。

2. メインルート事業

古代から現代まで 1500 年の歴史の舞台を一筆書きでつなぐ「メインルート」というコンセプトをより実感することができる機会を創出、コンセプトの再拡散、浸透を図る。

(1) 伊勢～飛鳥間連携事業

- ・日本風景街道「伊勢街道」連絡協議会や沿線自治体などと共催で、街道ウォークや講演会などを実施する。

(2) 飛鳥～奈良～京都間連携事業

- ・エリア内の会員団体などと連携し、年度テーマを選定、テーマに沿った史跡等を紹介する「飛鳥－奈良－京都歴史探訪マップ」を継続し、テーマに沿った施設を巡るスタンプラリー等を実施を検討する。

(3) 西国街道連携事業（京都～大阪～神戸間）

- ・エリア内の会員団体などと連携し、「西国街道」に関するリレー講座、リレーウォーク、スタンプラリーと、その他の「西国街道」に関するイベントのPR等を実施する。

(4) 京街道・淀川左岸地域連携事業（京都～大阪間）

- ・京阪ホールディングスや連携地域の自治体の協力を得て、「京街道」マップを可活用したウォークの促進、マイクロツーリズムを推進するイベントに協力する。

3. ネットワークエリア事業

戦国～江戸時代・古代史・紀伊半島の各ネットワークの魅力を、関係団体との連携事業の推進、歴史街道倶楽部会員誌『歴史の旅人』での紹介、後援イベント情報の展開等を通じ、幅広く発信する。

(1) 風景街道「琵琶湖さざなみ街道・中山道」

1) 滋賀県下の中山道の宿場町間のゆるやかなネットワークづくりを目的とした「近江中山道連絡会議」（情報交換、相互広報を目的に6団体が参加）との連携

- ・連携会議の開
- ・中山道の歴史文化資源などの相互PR、道の駅での展示等
- ・近江路中山道のマップを活用した広報活動
- ・歴史街道倶楽部イベントとして宿場町をめぐるウォークツアーの実施

2) 輪の国びわ湖推進協議会との連携

- ・輪学（勉強会）の開催
- ・サイクルツーリズムシンポジウムの開催
- ・滋賀関連の自転車促進事業への協力

(2) 紀伊山地三霊場会議との連携

- ・紀伊山地三霊場フォーラム開催、その他イベントへの協力

(3) 広域連携会議等との連携

- ・「世界文化遺産」地域連携会議、自転車道ネットワークを通じた広域連携、全国街道交流会等と連携し、相互PR、国への要望活動等を連携して行っていく。

予算 8,950 千円（2024 年度：4,900 千円）

Ⅱ．日本文化体感プログラム事業

(事業目的・方針)

本プログラムを通し、海外からの研修生には日本人の考え方や行動様式の根底に流れる歴史文化的背景を理解してもらい、日本での研修をより実りあるものにすることを目的とすること、日本人にはグローバル人材としての教養を身に付けることとあわせ、歴史・文化・伝統を次の世代へと継承することを目的とする。

また、本目的を実現するために、講義コンテンツおよび体験型活動の充実、多様なニーズに対応するプログラム提案力の強化、実施体制の整備に取り組む。

(事業項目)

1. 日本の歴史文化を伝える講義コンテンツの充実および体験型活動の充実

- (1) 日本政府が招聘した外国人に対し、英語のみならず、その母国語で日本文化を伝えるコンテンツの充実
- (2) 社員・職員向け、学生向け、一般向け等、研修目的にマッチした講義資料の整備、および体験型活動の拡充
- (3) 講義資料・現地体験内容のこまめなアップデート等定期的な講師・ガイドミーティングを開催し、講義資料の改善や情報共有を実施
[年2回（提案→審議→共有）を目途に、必要に応じて追加開催]

2. 顧客の多様なニーズに対応するパッケージ(講義と体験型活動)提案力の強化

- (1) 海外（インバウンド）向けプログラムの充実
 - ①国際協力機構（以下、JICA）が招聘する海外からの研修員に日本の歴史文化を紹介するプログラム（講義・現地体験）については、JICA および PREX 等研修事業者との連携を維持し、年間 35 件を目標とする。
 - ②関西観光本部、大阪観光局、日中経済貿易センター、旅行会社や財団等との連携により、海外企業の視察・研修旅行やインセンティブツアー、海外の教育機関からの教育旅行等への本プログラムの組み込み提案を積極的に実施する。
また、中国語圏からの企業研修、インセンティブツアー、修学旅行等への組み込みを目指す。
- (2) 国内向けプログラムの充実
 - ①企業等におけるプログラムの実施
企業・団体向けの研修や体験会の実施拡大を目指し、継続的な新規開拓を進める。
また、海外から研修生を来日させる企業も対象とする。（目標：新規開拓 1 件）
 - ②大学、高校などにおけるプログラムの実施
2025 年の大阪・関西万博開催時に国際交流の主役として活躍が期待される現在の大学生、高校生に向けたプログラムを積極的に推進し、国内において、若い世代の国際交流を積極的に後押しする。
 - ・首都圏留学生を対象に関西での日本の歴史文化を体感するプログラムの実施
能楽や伝統工芸などの文化体験を組み入れることとあわせて、関西在住の日人学生にも参加を募り留学生との交流を行う。

・関西の高校生の国際交流を推進すべく、関西に留学している大学生、日本語学校の学生を交えて歴史文化を体感するプログラムを実施する。

◎開催予定テーマ

- 1) 斑鳩町「国際交流を体感しよう！
法隆寺で木の文化の魅力を探る！」
(子どもゆめ基金助成金)
- 2) 岸和田市「国際交流を体感しよう！
岸和田でお城とだんじりの魅力を発見！」
(子どもゆめ基金助成金)

③通訳案内士、一般向けプログラムの実施

・関西の魅力を伝えていただく通訳案内士への情報提供を目的に、関西観光本部と共催で、オンラインを含め、本プログラムを展開する。

(3) 次代への継承を目的に、家族向け(小、中学生)プログラムを企画・実施する。

次代を担う子どもたちに

- ①日本の歴史や文化に親しみを持ってもらう。
- ②地域の歴史文化遺産を知ってもらう。
- ③歴史・文化・伝統を継承に関心をもってもらう。

ことを目指し、奈良教育大学や国立文楽劇場と協力するなど、活動内容を検討する。

3. 実施体制の整備

(1) 講義講師の育成、人材確保と多言語対応力の強化

- ・講師7名(内部1名、外部6名)体制にて継続運営中
- ・講義言語は、日本語、英語、スペイン語、フランス語、中国語を常時対応
- ・講義資料は、国連公用語を軸に翻訳版を整備
常時更新(日本語、英語、スペイン語、フランス語、中国語)
必要時更新(ロシア語、アラビア語)

(2) 会員企業・団体、地域ガイドなどの協力体制整備

(3) ガイドのレベル維持に向けた通訳案内士との協力体制の強化

4. 日本文化体感プログラムの積極的な国際発信と国内広報

(1) マスコミへの情報提供によるPR

留学生との交流プログラムでは、参加留学生の出身国プレスを主な対象とした広報活動を積極的に進める。

(2) 地元紙を通じた活動内容の周知

プログラムを実施する地域の方々に向けた発信を行うことで、協議会の活動への理解を深めていただく。

(3) WEB、SNSを活用した発信

- ・事業実績の紹介
- ・Facebook、X(旧Twitter)、Instagramを通じた即時性のある英語発信。

5. 特別企画

教材開発・普及活動「歴史街道・タイムスリップ号」の充実

令和3年度に子どもゆめ基金の助成を受けて制作したプログラムについて、更なる充実を図るために、以下について取り組む。

(1) コンテンツの充実

- ・映像またはマンガなどでの紹介を企画・検討する
- ・歴史街道エリアの資料館などへ協力を依頼し、内容の充実を図る。

(2) 英語版の作成

高校生をはじめ、留学生にも活用してもらえる英語版の制作について、助成金への申請も含め、企画・検討を行う。

予算 4,628 千円 (2024 年度 : 5,620 千円)

Ⅲ. フォーラム・展示事業等

(事業目的・方針)

地域にある歴史・文化遺産などにまつわる見聞を通じて地域の伝統・文化を学ぶ機会を積極的に提供することで歴史街道の存在価値を示す。

当該年度は、大阪・関西万博開催等の話題性のあるテーマを選定し、より多くの注目を得られる活動を展開する。

(事業項目)

1. 大阪府立中央図書館共催講演会&展示

6月～7月ごろ、大阪府下の歴史にちなんだテーマを選定、パネル展示と講演会を実施する。

2. 歴史文化遺産フォーラムの開催（関西広域連合共催）

関西の歴史文化遺産をテーマにフォーラムの開催等について共催先と企画・調整等を行い、実施する。

3. 紀伊山地三霊場フォーラムの開催（紀伊山地三霊場会議共催）

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」をテーマにしたフォーラムの開催等について共催先と調整する。

4. 大阪・関西万博の会場および道の駅や歴史街道 i センターなどにおける展示 PR

関係する団体などの協力を得、歴史街道エリアの魅力を発信する展示 PR を企画・調整をおこない、実施する。

予算 1,125 千円 (2024:3,060 千円)

IV. 歴史街道倶楽部事業

(事業目的・方針)

歴史街道計画実現のための応援団であり、かつ当該計画の検証機能を果たすための組織であるという位置づけに沿った活動に注力する。首都圏での認知度向上・会員増を目指すべく、首都圏における情報発信・活動を継続・強化していく。

(事業項目)

1. 会員誌『歴史の旅人』の発行

- (1) テーマ、地域を選定した特集を設定し、春号、夏号、秋号、冬号の年4回発行。
- (2) 会員誌の有効活用

より多くの方々の目に触れ、見ていただくことができるよう、公共図書館や関係団体の文化施設等への閲覧誌としての配架先拡大を図る。現在は関西圏や首都圏や中部圏の公共図書館他に加え、次世代を担う若年層への教育の一環として、大阪府・兵庫県下の公立高校図書館での配架を行っている。

2. 歴史・文化に触れるイベントの開催

- (1) イベントのさらなる魅力度向上

会員誌特集地域関連や街道歩きを行う「歴史のまちウォーク」においては、マイクロツーリズムの観点から、短時間でもまちの歴史文化に触れるようなメニューを企画・実施する。「歴史街道ならでは」のイベントを引き続き開催する。

- (2) 首都圏企画の継続開催と強化

伝統文化交流協会との共催により、伝統芸能鑑賞会、歴史ウォークを継続して開催し、首都圏での認知度向上と新規会員獲得を図っていく。協議会会員団体の東京事務所等に働きかけ、施設等での協議会情報発信を依頼していく。

- (3) 他団体との連携

近鉄文化サロン、近畿文化会及び阪急たびコト塾との共催講座に加え、他の会員団体とも連携を図る。

3. 歴史街道倶楽部会員の増強

- (1) 入会促進キャンペーンの実施

魅力的なキャンペーンメニューを検討し、新規会員の獲得を目指す。

- (2) 継続率の向上

会員更新特典を変更し、継続率向上を図る。

- (3) イベント会場での会員募集

歴史街道推進協議会および協議会会員団体が実施する講演会、展示、ウォーク等の会場で会員募集を行う。

- (4) 協議会会員団体における各種媒体での情報発信、入会案内チラシ配架等の協力の働きかけ。

協議会会員団体のイントラネット、関連雑誌、フリーペーパー等での会員募集記事の掲載や、各団体の OB 会等において歴史街道倶楽部会員の募集を行う。

また、主要駅等での入会案内チラシの配架を依頼する。

4. WEB による積極的情報発信

- (1) WEB サイト・SNS を有効に活用し、積極的な情報発信を行う。
- (2) オンラインセミナー開催の検討

5. ボランティアスタッフ

スタッフ会議への参加、会員誌『歴史の旅人』の編集企画、原稿執筆、イベント企画、運営のサポートをしていただくボランティアスタッフを随時募集する。

- ・定例会議の開催：年 4 回開催（4 月、7 月、10 月、1 月）
- ・フォーラム活動：歴史街道倶楽部会員が、自らテーマを設けて運営するグループであり、活動を通じて、口コミによる PR 活動を展開していく。

予算 10,670 千円（2024 年度:10,820 千円）

V. 広 報

（事業目的・方針）

歴史街道計画の知名度向上、理念訴求ならびに歴史街道ブランドの価値向上を図るとともに、歴史街道各地の魅力を発信する。

若年層を意識し、Instagram、Facebook、X（旧 Twitter）等、SNS の積極的活用等、新しい時代に合った広報活動を展開する。また、2025 年の大阪・関西万博など、大規模イベント開催を意識した情報発信を行っていく。

（事業項目）

1. 広報活動のさらなる充実

(1) Instagram の活用

特に若者への発信媒体として有効活用するため、インスタグラマーによる魅力的、定期的な発信をおこない、フォロワー数の獲得をめざす。

(2) 関西圏および首都圏での一般向け講演会の開催

首都圏での知名度向上と 2025 年大阪・関西万博開催を意識した情報発信の一環で、一般向け講演会の関西圏および首都圏開催を検討する。

(3) 電子版書籍などの制作の検討・企画

歴史街道が蓄積してきた歴史文化を紹介するエッセイや物語を手軽に多くの人に読んでいただき、日本史の旅を体感していただくために、多言語化を意識し、電子版書籍等アーカイブの制作について検討・企画する。

2. 情報発信

(1) マスコミ、関係者向けの情報提供

- ①メールマガジン「歴史街道 なう」（毎月第4木曜日）の発信
協議会会員団体担当者へ、毎月1回、活動状況について報告
- ②イベント等開催時のプレスリリース適時発信
- ③歴史街道情報交換会の開催
- ④自治体、関係団体の情報交換会等への参加など、マスコミ関係者等、キーパーソンとのネットワークづくりをおこなう

(2) 一般向けの情報提供

- ①メールマガジン「DO楽」（毎月第2木曜日）の発信
- ②月刊「歴史街道」（PHP 研究所）における広告頁記事掲載、WEB 歴史街道におけるエッセーの連載
- ③CATV リレー番組「歴史街道～わたしたちのまちの歴史と文化～」放映に対する協力
- ④関西5私鉄の沿線情報誌等、会員団体の媒体での掲出
阪急沿線情報誌 TOKK、JR ふれあいハイキングだより、近鉄ニュース等
- ⑤歴史街道 i センター（情報発信拠点 38 か所）および大阪国際会議場での掲出

(3) 協議会会員団体の持つ媒体との連携

会員団体支援のもと、各団体の持つ様々な媒体との連携広報活動を行う。

- ①会員団体 HP への協議会ロゴ（含歴史街道計画を応援しています）の掲出依頼
- ②各社のイントラネット、社内報、PR 誌などでの協力依頼

(4) 歴史街道 i センターの活性化

歴史街道 i センターを歴史街道の情報拠点として、継続して活用する。

(5) 会員団体等が実施する事業への後援・協力

会員団体、関係団体が開催する歴史・文化に資する活動に対して積極的に後援・協力を行い、後援イベント等の告知チラシの配布協力など広報効果を増やす。

- ・目標件数 100 件以上

(6) マス媒体への企画提案

マスコミに対して、発信媒体の獲得を図るため、歴史街道計画への理解を進め、共同企画等を働きかける。

3. 広報ツールの強化

(1) 協議会ホームページの有効活用

事業進捗に応じたリアルタイムの更新、地域の歴史文化情報の継続的発信を行う。
あわせて、英語サイトの充実を図る。

大阪・関西万博への来場者など、広く一般に周知するためのチラシ等を制作・配布する。

- (2) 多言語化対応動画の制作・活用
 - ・YouTube「旅の星」のライブラリーの充実
 - ・歴史街道推進協議会公式 YouTube チャンネルの活用

3. ターゲット層の拡大

- (1) ゲームオペレーション
 - ・昨年度に続いて京阪電気鉄道、南海電気鉄道、近畿日本鉄道、JR 西日本などとの共催でリアル謎解きゲームを実施する。
- (2) デジタルネットワーク型広報の強化
 - ・若年層にも届けたい季節の情報、後援イベントなど旬の情報を Facebook、Instagram、メールマガジンなどを活用して発信していく。
- (3) 人的ネットワークによる発信力強化
 - ・発信力があり、歴史街道計画を深く理解されているキーパーソンを「歴史街道観光大使」として認定し、様々なターゲット層への発信力を強化していく。

5. 首都圏広報の強化

フォーラム・展示会の定例開催や広報物等を定例配布することで、首都圏での情報発信力を高める。

- (1) 阪急たびコト塾でのセミナー開催検討。
- (2) 一般向け講演会の開催検討。
- (3) 他団体と連携したセミナーの開催検討。
- (4) 首都圏マスコミを対象としたプレスツアーの企画等を検討。

6. 大阪・関西万博に向けた取組み

大阪・関西万博（以下「万博」と記す）の開催に合わせ、関西に訪れた方々に対して関西の歴史に親しんで頂く取組みを行う。

万博開催と連携したスタンプラリーの開催、万博会場でのイベントの展開、万博を契機としたモデルコース紹介等を実施する。

予算 12,820 千円（2024 年度:31,790 千円）

VI. 各種の受託研究・受託事業などの実施

観光庁を始めとした行政・各種財団等が公募する受託事業、助成金事業等の獲得に取り組み、事業化を図る。

予算 100 千円（2024 年度:100 千円）

VII. 協議会運営

(事業項目)

1. 組織体制の強化、会議体運営

- (1) 協議会事務局組織体制の強化
 - ・事務局スタッフの充実強化
 - ・会員企業等へ出向職員要請を行い、事務局機能の強化を図る。
- (2) 会議体運営※オンライン会議システムと併用して開催
 - ①総会・理事会 1 回
 - ②幹事会 1 回
 - ③全体会議 3 回（4 月、9 月、翌年 2 月）
 - ④勉強会 適宜

2. 事業推進

I～V の事業を推進する。

3. 会員維持・増強及び会員との交流機会の拡大

- (1) 法人会員の拡大に取り組む。
- (2) 会員との交流の機会を拡げ、法人会員との連携・協力を努める。
- (3) 会員を対象とした勉強会や現地見学会等の充実を図る。
 - 現地見学会の実施 1 回（下期を予定）
 - 情報交換会の実施 1 回（下期を予定）

4. 要望・提案活動への取り組み

- (1) 歴史街道の理念に沿った事業への広報協力金の拡大や公募事業等への積極的な取り組みを行う。
- (2) 歴史街道計画の推進に必要な、国・自治体・企業等との連携事業については、関係団体に積極的に働きかけ、事業の推進にあたる。
- (3) 「企画提案型事業」については、会員および関係団体を中心により積極的に企画・提案を行う。
- (4) 2025 年大阪・関西万博開催に向け、インバウンドを意識した企画提案や運営に積極的に協力していく。
- (5) 一般社団法人関西観光本部への参画
関西広域での観光客誘致の推進を目的とした広域連携 DMO「関西観光本部」に官民連携団体として参画していく。
- (6) 文化庁との連携の強化
2024 年文化庁から日本遺産オフィシャルパートナーに指定されたので、日本遺産に認定されている地域の歴史文化資源の情報発信を積極的に推進する。

予算 800 千円（2024 年度：800 千円）

2025 年度 事業支出予算(案)		(単位：千円)
I	地域連携事業	8,950
II	日本文化体感プログラム事業	4,628
III	フォーラム・展示事業等	1,125
IV	歴史街道倶楽部事業	10,670
V	広報	12,820
VI	各種の受託研究・受託事業などの実施	100
	助成金事業	2,850
	計	41,143
VII-1	組織体制の強化、会議体運営	400
-2	事業推進	200
-3	会員維持・増強・交流	200
	計	800
	合 計	41,943

(2024 年度:59,140)

2025年度収支予算書(案)

2025年4月1日から2026年3月31日まで

(単位:円)

科 目	2025年度予算額(a)	2024年度予算額(b)	増減(a-b)
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①会 費 収 入	39,211,000	37,389,870	1,821,130
会費収入	29,565,000	29,175,000	390,000
個人会員会費収入	9,646,000	8,214,870	1,431,130
②事 業 収 入	250,000	250,000	0
受託事業収入	250,000	250,000	0
③負 担 金 収 入	22,924,000	39,500,000	△ 16,576,000
広報協力金収入	15,574,000	13,250,000	2,324,000
共同イベント負担金収入	7,350,000	26,250,000	△ 18,900,000
④雑 収 入	6,228,000	6,743,000	△ 515,000
事業活動収入計	68,613,000	83,882,870	△ 15,269,870
2. 事業活動支出			
①事 業 費 支 出	55,793,000	71,540,000	△ 15,747,000
会 議 費	800,000	800,000	0
広 報 費	41,143,000	58,340,000	△ 17,197,000
給 料 手 当	10,500,000	9,500,000	1,000,000
福 利 厚 生 費	1,870,000	1,870,000	0
旅 費 交 通 費	1,480,000	1,030,000	450,000
②管 理 費 支 出	12,320,000	15,455,000	△ 3,135,000
福 利 厚 生 費	240,000	240,000	0
旅 費 交 通 費	710,000	570,000	140,000
通 信 費	285,000	415,000	△ 130,000
消 耗 品 費	4,500,000	3,600,000	900,000
賃 借 料	5,400,000	9,430,000	△ 4,030,000
水 道 光 熱 費	240,000	280,000	△ 40,000
租 税 公 課	300,000	300,000	0
事 務 雑 費	645,000	620,000	25,000
事業活動支出計	68,113,000	86,995,000	△ 18,882,000
事業活動収支差額	500,000	△ 3,112,130	3,612,130
III. 予備費支出	38,784,404	33,429,856	5,354,548
当期収支差額	△ 38,284,404	△ 36,541,986	△ 1,742,418
前期繰越収支差額	38,284,404	36,541,986	1,742,418
次期繰越収支差額	0	0	0